

# 平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる	
政策	120	特色ある、多彩な魅力や個性を発信する
施策	122	特色あるすみだらしい魅力をもった観光資源や観光ルートをつくる
施策の目標	「すみだ」らしさを発揮する観光資源が数多く残されているとともに、新たな観光資源が開発され、にぎわいのあるまちになっています。	

## 1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
主要観光施設への来客人数	人	6,000,000	-	-	-	-	-

## 2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
両国観光案内所の来場者数	人	20,727	20,068	20,139	19,296	18,524

## 3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述

平成24年度に東京スカイツリー開業したこと、そして平成32年度には東京オリンピック・パラリンピックの競技開催会場になることが決定したことにより、墨田区に多くの注目が集まる中、両国地区の貴重な観光資源を輝かせ両国らしい賑わいを呼び覚ますためには、地域組織がより活動しやすくなるための仕組みづくりや、新たな地域組織の発掘と育成が必要である。

## 4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）

- (1) 優先的に資源投入を図る。
- (2) 現状維持とする。
- (3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
- (4) 資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

観光客を誘致するために、グランドデザインに基づき、地域住民及び事業者等と連携して観光まちづくりに取り組む必要がある。

【今後の具体的な方針】

平成25年度に「両国観光まちづくりグランドデザイン」を策定し、さらに「両国観光まちづくりグランドデザインの実現に向けた計画」を策定したので、これらの計画を基に両国の魅力を発信していく。また、地域住民及び事業者等とともに、両国の観光資源を発掘し、磨き上げ、編集し、発信して、区内外の観光客の誘致を推進する。



作成年月日：平成28年6月6日

事務事業名	両国地区まちづくり事業		所管課・係	都市計画課 まちづくり支援担当
施策	122	特色あるすみだらしい魅力をもった観光資源や観光ルートをつくる	連絡先	03-5608-6266
予算書名称	両国地区まちづくり事業		執行実績報告書ページ	162

1 事業の概要

両国地区の貴重な観光資源を輝かせ、両国らしい賑わいを呼び覚まし、両国地域の魅力の底上げを図ることで、押上業平橋地区からの回遊性を促し、墨田区のさらなる魅力の向上を図るため、平成25年7月に「両国観光まちづくりランドデザイン」を策定し、平成25年度に「両国観光まちづくりランドデザインの実現に向けた計画」を作成した。平成26年8月にエリア懇談会、12月に地域連絡会を立ち上げ、地域の方の意見を伺いながら両国観光まちづくりを推進する。	事業開始年度	平成24年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
地域住民、事業者、観光客					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
エリア懇談会等を通じ地域住民や事業者とともに両国の観光資源を発掘し、磨き上げ、編集し、発信すること					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
国内外からの観光客の誘致を進め、両国に魅力を感じた観光客がまち歩きをして賑わっている					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	ランドデザイン策定のための検討会開催(H25年度終了)		回	目標値	1	-	14
	地域連絡会、エリア懇談会の開催(H26年度～)			実績値	1	14	11
成果指標 (目的に対する指標)	両国観光案内所の来場者数		人	目標値	22,000	22,100	22,200
				実績値	20,139	19,296	18,524
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
平成24年度に「両国観光まちづくりランドデザイン」の中間の取りまとめを行い、平成25年7月に策定した。また、平成25年度に「両国観光まちづくりランドデザインの実現に向けた計画」を作成したことから、これらの計画を基にエリア懇談会や地域連絡会等を開催し、地域の方の意見を伺いながら、両国の魅力を発信し、観光客に両国を愉しんでもらう。平成26年度及び27年度には、両国地域においてまち歩きイベント(「両国春のまちブラ」)を実施した。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	都市計画費	目	都市計画費	
27年度 歳出予算額	4,011	27年度 歳出決算額	3,953	27年度 執行率	98.6%	28年度 歳出 予算額	4,014
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>・平成28年度には東京マラソンのコースに盛り込まれ、また、平成32年度には東京オリンピック・パラリンピックの競技開催会場となることが決定したこと等により、これまで以上に両国地域への注目が集まっている。</p> <p>・両国地域の魅力を区内外に発信し、墨田区全体の回遊性を向上させ、観光まちづくりを推進するために本事業は必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>・ソフト事業とハード事業が両輪となって観光まちづくりを進めることにより、地域の方々の意見を反映した事業を展開できるため、有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>・地域の方々の意向を伺いながら事業を進めているため、事業の実施には一定の時間を要する。</p> <p>・地域の方々の自発的なまちづくり活動へつなげていくためには、活動の積み重ねが必要である。</p>				
(4)現状と課題	ソフトとハードが連携し効果的に観光まちづくりを進めるに際して、住民等との協働の仕組みづくりと庁内の連携体制の強化が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	オリンピック・パラリンピックに向けて、継続して観光まちづくりに取り組む必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	観光まちづくりを地域の方々と協働で進めていくため、地域連絡会等の運営等について工夫する必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無
	要旨	無